

平成 29 年 9 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 29 年 9 月 28 日 (木) 午前 9 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 301

3 出席委員の氏名

教 育 長	仲 野 孝	教育長職務代理者	齋 藤 和 夫
委 員	黒 川 優 子	委 員	山 崎 克 弥
委 員	中 野 信 男	委 員	秦 久美子

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長	山 田 公 一	主 幹	長 谷 川 智
学 校 教 育 課 長	堀 克 彦	子 育 て 支 援 課 長	白 井 健 次
社 会 教 育 課 長	宮 路 一 規	指 導 主 事	小 泉 浩 彰

5 本委員会書記

学校教育課 太 田 和 行 他 1 名

6 傍聴人

なし

7 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 9 号 新規共催・後援申請について

議 案

議案第 43 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

議案第 44 号 燕市生涯学習人材バンク事業実施要綱の一部改正について

その他

(1) 平成 29 年第 3 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 29 年度燕市一般会計補正予算（第 4 号）の概要について

2) 一般質問の概要

(2) 「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果」について

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午前9時30分～

2. 会議録署名委員の指名 齋藤和夫委員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

- 間もなく10月、これから各園や各学校では様々な行事が行われるが、元気に活動する園児や児童生徒の活躍を期待している。
- 9月2日(土)には、天候に恵まれ、全ての中学校で体育祭が行われた。3日は、2つの幼稚園で運動会が開催され、多くの保護者などの参観があった。

2 平成29年第3回(9月)市議会定例会

- 分水小学校区統合保育園整備事業については、別紙の配布資料のとおり、平成33年4月の開園を目指し、分水小学校区の公立保育園の2園を統合する整備事業に係る補正予算について可決をいただいた。今後、説明会を重ね、細かい変更はあり得るが、整備方針のもと着実に事業を進めていきたい。
- 燕市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正についても、可決をいただいた。
- 主な一般質問要旨は以下のとおりであった。
 - ・ 幼保民営化について
 - ・ いじめ問題について
 - ・ 児童生徒の教育を取り巻く課題について
 - ・ 学校における手話の理解普及・取り組みについて
 - ・ 通学路における交通安全確保に向けた取り組みについて
 - ・ つばみ保育園の今後について
 - ・ 小学校の普通教室へのエアコン設置について

3 9月の行事予定より

(1) 第3回吉田西太田保育園民営化移行に伴う三者協議会(9/5)

- この会では、第2回目の協議事項を確認するとともに、保育行事に関する事項や事故防止及び安全対策に関する事項、園名やクラス名に関する事項について協議を行った。

- 第3回目までの協議が終了したところで、保護者や地域の皆さまを対象とした報告会を行うこととしており、その説明会を10月28日(土)に、吉田西太田保育園を会場に午前10時から実施する予定である。
 - これまでの会議では、概ね順調に協議が重ねられており、保護者や地域の皆さまに対しても、丁寧な説明に努めたいと考えている。
- (2) 新潟県保育士西蒲支部研究会(9/13)
- 予防医学研究者であり医学博士の石川善樹先生が、「人生100年時代におけるストレスとの付き合い方」と題して講演会が行われた。
 - 示唆に富んだ内容であり、また納得させられる話しぶりに聞き入った方も多かったと思う。今後教職員は、ストレスをコントロールしながら健康管理をする必要がある。なお、講師は来月も本市で講演するとのこと。
- (3) 幼稚園・子ども園合同発表会(9/16)
- 7月15日に開催された飛燕夏まつりの「音楽パレード」から2ヶ月が経過し、さらに自信をもって演奏している姿に感銘を受けた。
 - 5歳児がリズム表現や鼓隊演奏、歌などを披露したが、かなり時間をかけて練習した成果が十分発揮され、保護者などを魅了していた。
- (4) 国民体育大会出場選手団の燕市激励会(9/21)
- 9月30日から愛媛県で行われる第72回国民体育大会と、第17回全国障害者スポーツ大会に出場する選手団の激励会が燕市体育協会の主催で行われた。
 - 大会では、監督や選手などを含めて25人が選手団に選出されており、その多くが高校生である。選手が存分に力を発揮し大会での活躍を期待している。
- (5) 中学生を対象とした異文化相互理解セミナー(9/26)
- 燕ロータリークラブが主催し、第4回目を迎える本セミナーが燕中学校の2年生を対象に行われた。
 - 今年は、コーディネーターに新潟県立大学の教授や学生20人と、米山奨学金を利用して新潟に留学している学生12人及び留学生7人が中学生2年生とワークショップを行い、ベトナムやモンゴルなどの異文化に触れた。
- (6) 長善館友の会設立総会(9/30)
- 設立準備会の星野会長をはじめ、地元粟生津地区の皆さまのご尽力などにより、標記の会を設立しその総会を行うことになった。
 - 当日は総会のあと、筑波大学の中野目教授による「明治20年、長善館存続をめぐるドラマ」と題しての講演会も予定されている。
 - 事業所会員や県内外の会員を合わせ、会員数は200人を超えた。
- 4 弾道ミサイル発射における避難行動
- 北朝鮮による弾道ミサイルの発射が相次ぎ、Jアラートが発令された。園

や学校では、子どもを預かっている時間帯に発令された場合に備え、避難行動について訓練をする必要があり、既に実施済みのところもある。

- ある園では、Jアラートのサイレンや訓練で怖がる園児もいたとのことであり、訓練に当たっては保護者に理解を求めるとともに、過度な不安を与えないように細心の注意が必要となる。
- サイレンの時間帯によっては、一時的に登下校を控えてもらうこともある。

5 小学校と幼稚園及び保育園などとの連携

- 7月に教育支援委員会を行い、その後委員が夏休みに各園を訪問し、特別な支援を要する園児の状況を把握した。次の委員会は11月下旬を予定しており、保護者のニーズと委員の見立てに擦れがある場合は、再度園を訪問し、その後保護者との面談を実施する。また、就学時前の健康診断の際、スクリーニングを行うが、再検査を必要とする園児には教育相談を行うことにしている。
- 今後は、校長自らが園や学校を訪問し、児童生徒や園児の様子を見るなどして、校長や園長などと情報交換を行い、実態把握に努める必要がある。

○委員（山崎 克弥）

燕市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正とは、どういったものなのか。

○子育て支援課長（白井 健次）

今までは保育園に入園申込をする時は、事前に支給の認定を受ける必要があり、それによって受けるサービスが決定し、支給認定証が交付されていた。今後は毎年保護者が園へ提示していた認定証に代わり、支給認定証の情報を市役所が各園へあらかじめ通知することで申請の簡素化を図るものである。また支給認定証の交付は行わず、通知書の形で認定情報を保護者へお知らせすることで、認定証の提示は必要なくなるので、紛失の際の再交付等はなくなり、保護者の負担はこのことによって軽減されることになる。

○委員（黒川 優子）

特別な支援を要する園児について校長自らが園や学校を訪問するとあるが、今までもこのようなことは行っていたのか。

○教育長（仲野 孝）

今までも行っていたが、園によって差が生じないようにさらに実態把握に努めるということである。

(3) 寄附報告

1 件の寄附報告について
〈堀学校教育課長が報告〉

4. 専決処分の報告について

報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について
11 件の共催・後援について
〈No.1、4～7、9、11 宮路社会教育課長が説明〉
〈No.2、3、8、10 堀学校教育課長が説明〉

5. 協議題

協議第 9 号 新規共催・後援申請について
2 件の後援について
〈No. 1 宮路社会教育課長が説明〉
〈No. 2 堀学校教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく承認された。

6. 議案

議案第 43 号 燕市学校支援地域本部コーディネーターの委嘱について
〈堀学校教育課長が説明〉

議案第 44 号 燕市生涯学習人材バンク事業実施要綱の一部改正について
〈宮路社会教育課長が説明〉

○委員（齋藤 和夫）

昨年度の利用実績を教えて欲しい。

○社会教育課長（宮路 一規）

昨年の 10 月から開始させていただき、件数で 8 件、講座等の参加人数で 250 人の利用実績となっている。今年度は本日現在、件数で 8 件、参加人数 322 人となっている。

審議の結果、全員異議なく議案 43、44 号は原案通り議決された。

7. その他

(1) 平成 29 年第 3 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 29 年度燕市一般会計補正予算（第 4 号）の概要について
〈各課長が説明〉

2) 一般質問の概要
〈山田教育次長が説明〉

○委員（中野 信男）

山崎雅男議員の通学路安全確保について、生徒に対する安全指導は行っていると思うが、朝の通勤時は特に自転車と自動車のヒアリハットを感じている。また、子どもたちが自動車は止まって当たり前と思っているのであれば、教育上良くないと思うので指導を願いたい。

○主幹（長谷川 智）

中学生には春から自転車の乗り方などを繰り返し指導するとともに、交通安全協会からも同様の指導を行ってもらっているが、小さい事故は多い。運転手目線にたった指導も有効だと考える。大きな事故が起こる前に再度指導をしていきたい。

○委員（黒川 優子）

自転車に関しては自分も気になっており、特に中学生の多くが良くないので重点的に指導を行って欲しい。

(2) 「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果」について

〈小泉指導主事が説明〉

○委員（齋藤 和夫）

新潟市のような政令指定都市は県平均の中に含まれているのか。

○指導主事（小泉 浩彰）

新潟市は新潟県の平均の中に含まれている。

○委員（中野 信男）

新潟市の平均が高い理由は何だと思われるか。

○指導主事（小泉 浩彰）

新聞報道によると大きく分けて2つの面があり、1つには政令市は人口も多く新潟市内で多くの人事交流を行うことができるため、指導の仕方を一定とすることができる。そのため教員はどこかの学校へ行っても同じ指導を行うことができる。子どもたちにとっても、どの先生が来てもわかりやすい。もう1つは「課題、まとめと振り返り」の授業パターンも新潟市は徹底されているということがこの結果に結びついていると言われている。

○委員（中野 信男）

燕市は学力調査の結果について新潟市と比べると一般的にはどのような状況なのか。

○指導主事（小泉 浩彰）

新潟市は政令市の中でもトップにあるので小学校に関しては新潟市の方が高い。中学校に関しては、数学Bは少し劣るが他の3つに関しては遜色がない。授業に関しては「課題、まとめと振り返り」は小学校の方が頑張っているが、燕市の中学校はもう少し頑張らないといけない状況にある。

○委員（中野 信男）

新潟市の良い所を取り入れていきたいという思いがあると思うが、燕市はどう考えているのか。

○指導主事（小泉 浩彰）

燕市では学期ごとに学校訪問を行っている。その際には、指導主事5人が一緒になって継続的に焦点を絞りながら重点的に指導を行っている。

○主幹（長谷川 智）

燕市内でも各授業の際にしっかりと課題を明確にして話し合いを中心にまとめを行い、最後に感想を明確に板書し、それをきちんとノートに書くということを何年も前から行っている。これを新潟市は10年ほど前から行っており、やっと各学校に定着してきている。秋田市などを参考にして取り組んできた成果が出てきたのではないかと考えている。

○委員（中野 信男）

燕市はその取り組みを行ってからどれくらい経っているのか。

○主幹（長谷川 智）

5年程度経過している。

○委員（中野 信男）

小数点1位の標記をやめ四捨五入をする変更について、文部科学省はどのように考えているのか。

○指導主事（小泉 浩彰）

過度の競争をあおらないようにするということである。

○主幹（長谷川 智）

あれだけ何万人も受けた中での0.何ポイントの差は優位の差かどうかを文部科学省が検証をし、0.1ポイントの差はそれほどの優位の差ではないと以前から言っていたが、実際に数字として出ると、順位に反映する差として出てしまう。元々のテストのねらいは県との比較ではなく、学校の中で良いところと頑張るところを見つけることである。

○委員（中野 信男）

統計の取り方について毎年思うが、一概に平均値が代表値とは言えないが、この結果は標準偏差になっていると思うので、平均は1つの代表値だと思う。同時に文部科学省が平均を公表していないのは何か考えがあってのことだと思うので、その理由をぜひ探って欲しい。

○主幹（長谷川 智）

各学校は点数ごとの正規分布を持っている。マスコミに全国へ公表する数値としてそこまで燕市内の最高値や最低値を公表する必要はなく、元々のねらいは各学校内でしっかり分布を調べて対策をたてることである。各学校では詳しいデータを持っているので、それで良いのではというのが文部科学省の見解ではないかと考える。

○委員（中野 信男）

例えば新潟県の標準偏差がどうなっているか、分布の仕方によって今後の教育の指針がわかると思うので、その大切なものが公表されないのはどうも納得がいかない。

○主幹（長谷川 智）

県も市もその文部科学省からのデータは持っているが、大事なものは県・市の傾

向を市教委がしっかり把握することにあるので、そこまで公表はせず、現在は平均値だけを公表している。

○委員（秦 久美子）

「毎日同じ時刻に寝ている」「毎日同じ時刻に起きている」という質問があるがこれはこの質問の形で子どもたちに投げかけているのか。きっと早寝早起きをしてもらうための質問だと思うが、遅寝遅起きの子どもの決まった時間に起きて寝ていると思う。そういった子どもたちもここにカウントされているのか。何時に寝て起きているかといった質問であれば、少し質問の仕方が違うのではないか。

○指導主事（小泉 浩彰）

質問事項は全国一律のものであり、県・市で変更することはできない。委員の言う子どもたちも含まれていると思うが、各学校において何時に寝ているかは個別にアンケート等をとっている。

○委員（黒川 優子）

調査の結果を見て、「人の役に立つ人間になりたい」という子どもたちがたくさんいたのは嬉しかった。

8. 閉 会 午前 11 時 02 分

教 育 長 仲 野 孝

会 議 録 署 名 委 員 齋 藤 和 夫

会 議 録 調 整 者 竹 田 亮 子
